

積み上げよう、交流しよう、高めあおう、

私たちの教育環境整備

上川管内公立小中学校事務職員協議会 中央ブロック

1. はじめに

(ア) 上事協について

上川管内公立小中学校事務職員協議会（上事協）は旭川市を除く上川総合振興局管内22市町村で構成されています。

上事協では、会員一人ひとりが研究の主体となることを目指して、研修部は毎年6月開催の夏季研究大会で具体的な管内検討課題を提起しています。

2013年からは「教育環境整備の推進」を共通目標に掲げ、研修を推進しています。

日常の研修は、南北に長い地理的条件から管内を名寄・士別・中央・富良野の4つのブロックに分けて研修を推進。

ブロックの研修成果を交流し、研修の充実と深化発展に努めています。

(イ) 中央ブロックについて

中央ブロックは、旭川周辺的美瑛町・鷹栖町・比布町・東神楽町・東川町・当麻町・愛別町・上川町の8町で構成されています。8町の自治体規模が似ているため、各町が抱える課題にも共通点が多く、施策や予算の比較などが行いやすく、日常的な情報交換も盛んに行われています。

少子化の影響で、学校の統廃合が進み、8町のうち小学校1校、中学校1校の町が3町、小学校2校、中学校1校の町が2町と半数を超え、今後ますますこの傾向は進んでいくと予想されます。

学校数の減少は事務職員の配置数にも影響し、自治体の枠を超えた広域での情報交換・連携の必要性がより一層高まっています。

2. 研究の経過

(ア) 研修テーマの設定

2013年6月の夏季研究大会で、上事協研修部は、今後の学校事務を進めるための共通目標として「教育環境整備の推進」を提起しました。この提起を受けた中央ブロックでは、研修テーマを、【子ども達の生活の場を意識した「教育環境整備」～学校間連携を通じた学校づくり～】と設定しました。

これまででも、上川では市町村を単位として、日常的な情報交換をはじめ、予算や施設・備品等の教育環境整備の推進にあたり、行政や地域を含めた学校間連携を行い様々な成果を上げてきた経緯があり、中央ブロックの各町においても地教委と学校事務担当者による学校間連携会議が定期的に行われ、教育環境整備について有意義な話し合いが行われてきました。

研修テーマ設定にあたり、この学校間連携会議の機能を最大限に生かして、町を単位とした教育環境整備に取り組んでいくことを確認しました。

町名・人口	校数	要項	回数	会議名・主催者	内容	2015.2現在 参加者
美瑛町 10593	小6	あり	5回	学校財政運営連携会議 教育長招集	予算（配分・執行・調整・要求）経理方法 営繕 旅費 文書取扱要領作成 情報交換 情報セキュリティポリシー作成	課長、課長補佐、係長、主査、主事 教頭、事務職員、事務生（未配置校）
	中3					
東神楽町 10237	小4 中1	あり	9回	学校間連携会議 教育長招集	学校財政・財務 学校環境 教育情報 学校事務 その他必要な事項	課長補佐、主任2名 事務職員、事務補（未配置校）
東川町 7995	小4 中1	あり	2回	学校間連携会議 教育長招集	予算 施設営繕 事務処理改善（備品関係・給食事務） 保護者負担軽減 情報交換	学校教育課長 室長 主任 事務職員（予算時 教頭）
鷹栖町 7339	小2 中1	あり	6~10回	学校間連携会議 教委係長 学校側幹事の連名招集	予算（要求・執行）施設営繕 事務処理改善管理規則等の改訂検討 保護者負担軽減 情報交換	係長 主事 事務職員
当麻町 6840	小2 中1	なし	3回	経理担当者会議 教育課長招集	予算（要求・執行）施設営繕 情報交換 事務処理改善 即給開発計画の検討	課長補佐 係長 主査 主任 教頭 事務職員 事務生（未配置校）
上川町 4008	小1 中1	なし	1回	経理担当者打合 情報交換	予算（要求・執行）施設営繕 情報交換	副主幹 主任 事務職員
比布町 3924	小1 中1	なし	2回	学校事務連携会議 教育長招集	予算（要求・執行）施設営繕 事務処理改善	係長 主事 事務職員
愛別町 3121	小1 中1	あり	2回	学校事務連携会議 教委次長招集	予算（要求・執行）施設営繕 情報交換 事務処理改善 スクールバス	主幹 係長 主事 教頭 事務職員 スクールバス担当者 （1回 目のみ）

(イ) 実践の交流

早速、各町において教育環境整備の実践に取り組むこととなりました。

その取り組み手順として

1, 各町における教育環境整備の現状把握と、

課題設定

2, 設定した課題を解決するための具体的な実践計画

3, 学校間連携会議を中心に具体的な実践

4, ブロック研における実践交流・意見交流

5, 統一した様式による実践の蓄積(記録化)

以上の5点を確認し、手順に沿った実践に取り組みました。

実践の蓄積に当たっては、既に成果を上げている実践も含め「学習環境整備」と「生活環境整備」の2つの観点から分類整理し、ブロック研の中で交流していくこととしました。

また、実践報告は記録化に取り組むため、まとめやすさに配慮し、共通の様式を定めました。

(ウ) 研修テーマの見直し

2014年は、前年度に引き続きさらに実践の交流と積み上げを目指すため、研修テーマを「積み上げよう、交流しよう、高めよう、私たちの教育環境整備」としました。

前年度の取り組みを振り返る中で

- ① 学校単位で成果を上げている実践が数多くある
- ② 「学校間連携会議」が「教育環境整備」を進める上で重要な「手段」になりつつある

・・・との意見が出されました。

そこで、各町ともに学校数、事務職員数が減っていく現状を踏まえ、他町との積極的な交流を行うと同時に、学校単位の実践も幅広く学び、さらには持ち帰って自校での実践に生かしつつ、「学校間連携会議」の中で町全体の取り組みへと発展させていこうとの確認がされました。

さらに、実践交流の方法についても、従来から行われてきたブロック研での交流に加え、上事協Web(後述)を活用するなど交流手段に幅を持たせる工夫を行い、さらにはWeb上での実践の記録化にも取り組みました。

3, 新たな取り組み

上事協では、2004年より「上事協アーカイブ」として研修の成果や個人の優れた実

践の記録化に取り組んできました。

当初は、年度毎に上事協研修部や各ブロックの研修の成果、会員の実践を整理してCDに収め、会員に配布していましたが、2012年にSNS「上事協Web」の運用が開始されると同時に、Web上にアーカイブされることになりました。

上事協の会員は、登録することにより上事協Webへのログインが可能となり、これまでの研修成果や実践事例の閲覧、情報交換や課題解決のために広くアイデアを求める時などに活用できる環境が整備されています。

本レポート作成にあたり、中央ブロックではWeb上にレポート検討委員会の掲示板を作成し、レポート内容の検討や原稿の校正に活用する試みにも取り組みました。

Web環境の活用を導入するにあたり、レポート作成の手順を見直し、

- 1 ブロック研及びブロック研終了後のレポート検討委員会での検討
- 2 レポート作成担当者による原案作成及び上事協Webへの掲載
- 3 Web上での質疑応答・意見交流
- 4 担当者による意見反映、原稿の修正
- 5 次回ブロック研での全体討議

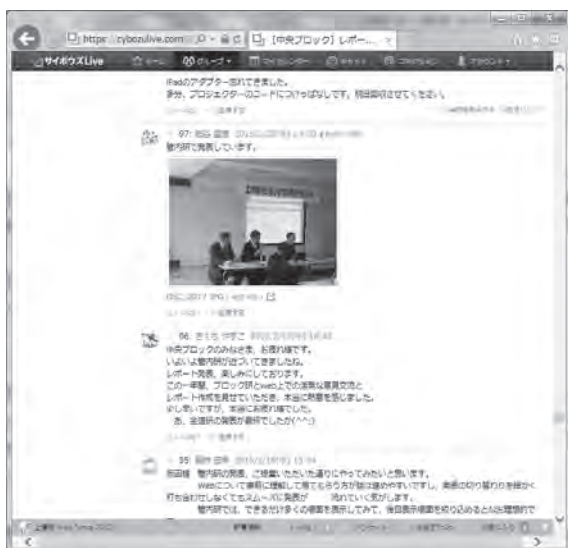
を基本として、1～5の手順を何度か繰り返しながら、レポート作成を行いました。

レポート検討の手段に、Web環境を加えたことで、レポート検討委員会事前の原案提示と、事後の意見反映、推敲が随時可能となり、時間の有効活用とレポート検討委員会における深まりのある議論を行うことができました。

さらに、Web上でのレポート検討過程は実践事例と共に、上事協Webにアクセスできる全ての会員に公開しました。

2015年2月の管内研におけるプレ発表後は、上川から発信するレポートとして他ブロックの実践について情報提供や意見を寄せていただき、管内的な視点からレポート検討を行うこともできました。

レポート作成の過程が可視化されたことは、研修への参加意識を高めることができたと考えています。



4. まとめ

中央ブロックでは、2013年度の上事協研修部の提起から、2年間にわたり「教育環境整備」の実践に取り組んできました。

実践をとおして、私たち学校事務職員が「教

育環境整備」を意識しながら日常の業務を遂行することの大切さを学びました。

そして今私たちは、わが町の子どもたちに「学び」と「育ち」の場としての良好な教育環境を提供するという目的意識を、町と地域と学校が共有し、「教育環境整備」に連携して取り組むことで、様々な課題を解決していくことができると確信しています。

また、「学校間連携会議」は、教育環境整備を進める上で、抱える課題を共有化し、様々な角度から検討を加え、そして、解決への道筋をつけていく大切な共通の手段として機能することも確認できました。

さらに、町の枠を超えた実践の交流は、それらの実践を参考にした本校での新たな取り組みを促したり、各町の学校間連携会議を通して町全体の取り組みに発展するなどの効果を発揮しました。これらの広域の連携は、単なる情報交換にとどまらず「教育環境整備」の実践の大きな土台として発展すると期待しています。

一方で、「上事協 Web」は新しい研修の形を提供してくれました。

もちろん、これからも研修の基本は会員が一堂に会して行うブロック研であることは言うまでもありません。一方で、Webによる研修や交流は、文章にすることの重さ、雰囲気や微妙なニュアンスが伝わりにくいなどの危険性をはらんでいるものの、時と場所にとられない機動的な実践交流を可能とし、よりおおくの研修機会を提供するとおさえており、今後の研修活動を補完する手段であると考えています。

また、Web環境を活用した実践の記録化は、世代交代や異動による会員の入れ替わりがあったとしても、上川の先達が残してくれた優れた実践を新たな会員へ継承していくことに大いに役立つものと思います。

最後に、2年間の本研修テーマへの取り組みを通して、「私たち事務職員は、子どもたちの教育環境に対して大きな責任を持つ職員である」と再確認すると同時に、誇りと使命感をもって日々の業務に意欲的に取り組んでいくことの大切さを改めて認識することができました。

「教育環境整備」実践報告（デジタル教科書の整備）

2014年5月18日

鷹栖町立鷹栖小学校

報告者 坂田 淳哉


実践種別	学習環境整備 () 生活環境整備 ()
1. 現状における課題	指導書の整備に関して、デジタル教科書の導入を協議。前回(H23)に初導入。教科的に前導入を目指す。
2. 具体的な実践内容	(デジタル教科書の整備) H26 1、学校間連携会議で整備した機器の効果的な活用には、ソフトウェアの整備が欠かせないことを強調。 2、同時に、文科省から提供される「Hi! friends」等の教材が、電子黒板を前提にした教材であることを紹介。 3、各校予算で移動式電子黒板を購入し情報担当教諭に授業をデモしてもらい、デジタル教科書整備が、教師の電子黒板の活用を促す事例を教育委員会に紹介。 4、学校間連携会議で、指導書改訂に合わせ、主要教科全てのデジタル教科書を配備することを確認。予算化。
3. 連携について	町内の全校について条件は同じであることを強調。導入条件は同じレベルを確保。
4. 得られた効果	連携会議を通じた継続的な啓蒙で、前向きに精美に取り組んでもらえた。また、これに合わせ、ICT活用も含めた教職員研修補助費を確保することができた。
5. 成果と課題(展望)	当初要望では音楽・図工等全ての教科導入を希望していたが、削られた。今回は全教科を目指したい。また、参観日等、来校者のあるときの活用や、日常的な活用の活性化と、その活用状況の紹介を各方面に働きかけた。それがまた、次回の整備に大きな影響を及ぼすと思う。

「教育環境整備」実践報告（暑さ対策：遮光ネット設置2013）

2014年8月7日

鷹栖町立鷹栖小学校

報告者 坂田 淳哉

実践種別	学習環境整備 () 生活環境整備 ()
1. 現状における課題	本校の普通教室は、東側に窓が設置されていて、夏季になると午前9時くらいから教室の温度が30度を超える日が珍しくない。また、構造上、風の通りが悪く、湿度も常時60%を超える状況にあった。
2. 具体的な実践内容	暑さ対策を検討していたところ、農業用遮光ネットで窓を覆うことである程度、室温上昇が抑えられると言った情報を得て、試してみることにした。原材料費が4万ほどあったため、これを利用して農業用遮光ネットとポールを購入し、校舎一階の教室に設置した。 
3. 連携について	この取り組みを、上事協Webで報告したところ、中央ブロックのいくつかの学校で取り組みが広がった。
4. 得られた効果	・設置前より、温度上昇が1〜2度ほど抑えられた。 ・遮光効果があるため、直射日光が入る時間帯でも、カーテンをしなくてもすむようになった。 ・窓との隙間を空けるように設置すると、風の通りが良くなり、より効果があるようだ。
5. 成果と課題(展望)	・価格も安く取り組みやすい。 ・児童の生活環境や職員の勤務環境が向上した。 ・他町村の学校と情報交換し連携して取り組みが出来る。 ・2階の教室への設置が難しく、課題になっている。

「教育環境整備」実践報告（フラワーロードの整備）

2015年4月28日

東川町立東川第二小学校 報告者 紙谷 里恵

1. 実践種別	学習環境整備 () 生活環境整備 (○)
2. 現状における課題	フラワーロードを毎年作っているが、花が長持ちしないと職員で話題になる。子どもたちは、水やりをしているのに、水枯れの状態になりやすい。プランターをアスファルトに置いていたため、照り返しやアスファルトの熱で常に水枯れ状態になっているのではと考える。
3. 具体的な実践内容	<p>1. 調査 公務補にプランターの状態を確認してもらう。プランターの底部に軽石等はいれていないことがわかる。児童の水やり状態も観察。子どもたちにも最近の様子を聞き実態把握をする。</p> <p>2. 検討 どうしたらよいか、公務補と連携して案を検討する。プランターの土の入れ方の工夫・配置する場所の検討。アスファルトの熱を直接受けないように台を設置してはどうかなど検討。</p> <p>3. 導入 教育委員会に緊急要望をあげる。 業者に発注をかけると高額になるため、原材料費で材料を購入し、公務補が製作することにする。1台に2個プランターが乗るように設計。20個製作するため、もともと物置にあったすのこを加工する。</p> <p>4. 連携 公務補・担任 保護者向け事務便りで保護者に周知したい。</p>
4. 連携について	職員会議で水やりの方法や育て方などの改善・花台の購入の話が出たが、予算がなく断念しかかっていた。公務補と連携することにより、格安で花台を用意することができた。公務補・担任と連携をはかることで職員会議においても、より良い案を提案でき、学習環境・生活環境について教職員であらためて考えるきっかけになった。
5. 得られた効果	照り返し熱や、アスファルトの熱を直接受けることがなくなった

	め、枯れる花がほとんどなくなった。きれいに色が塗られた台を設置することで、景観もよくなり、子どもたちもより一層、フラワーロードに注目し、水やりをかかさなくなっただけに思われる。
6. 成果と課題 (展望)	安価な方法で学校で用意することができたのはよかった。環境を整備することは、ものを用意するだけでは効果半減であり、使い方や、指導、教職員の共通理解が大切であることがわかった。

以前はこんな感じ



今はこんな感じ

